

社団法人 日本非破壊検査協会 平成 21 年度事業報告

我が国の政権が自民党から民主党へと大きく変わった年であり、一方では新型インフルエンザが全国的に広がり、協会行事にも少なからず影響を受けた年でもありました。

本協会では、日常生活における機械や構造物の安全性の向上並びに安心感の確保を通じて社会の安定成長に貢献すべく、非破壊検査に関する学術活動を積極的に推進するとともに、技術力並びに職業的倫理性を兼ね備えた非破壊検査技術者を世に送り出している。この目的達成のために、協会の組織・運営に関わる事業として以下の活動を行ってきた。

平成 22 年度からの学術組織再編に伴い、会員部門登録システムの構築作業を進めるとともに、会員の皆様へ登録事項等の変更をお願いした。現在までに、およそ 350 の団体会員、1,400 名の個人会員が部門登録を行っている。

新公益法人改革法案に伴う新制度への移行に対処すべく、作業部会を引き続き理事会直轄として設置し、定款、諸規則及び会計についての見直しを行った。また、国際教育を受け皿として「第 3 回アジア諸国との非破壊試験に関するワークショップ」を第 13 回アジア・太平洋非破壊試験会議（APCNDT2009）と並行して開催した。アジア地域 13 ヶ国と意見交換及び非破壊試験技術の実勢調査を行った。

以上の取組みに加えて、平成 21 年度の事業として以下の活動を行った。

分科会、特別研究委員会、研究会活動及び各種公開シンポジウムを開催して、非破壊試験に関する先端技術の調査・研究活動を活発に行った。東京（アルカディア市ヶ谷）で開催された春季講演大会では、一般講演 88 件、特別講演 1 件で参加登録者 204 名を得た。また、学術活動の活性化のために研究奨励金・研究助成事業制度の規則を見直し、平成 22 年度の給付に向けた募集を行って給付者を選考した。

国際学術関係では、第 13 回アジア・太平洋非破壊試験会議（APCNDT2009, 11 月 8 日～13 日、パシフィコ横浜）を開催して無事終了した。講演件数は合計 178 件（特別講演 4 件を含む）、参加者数 331 名で大変盛況であった。また、米国非破壊試験協会（ASNT）と共催による、通算 4 度目の日米 2 国間の日米シンポジウム（本年 6 月 7 日～11 日、ハワイ・マウイ島）の開催に向けて準備を進めた。

機関誌「非破壊検査」の発行に関しては、特集企画や連載企画を充実させることに努めた。機関誌誌面の更なる刷新を図るため、表紙および本文ページデザインの全面改訂を行うと共に、掲載誌面の統一を図るために、論文及び解説記事の図表の品質の向上を推進した。59 巻 1 号より、全国の国公私立の大学及び工業高等専門学校附属図書館に対して、永続的な機関誌の寄贈の申し入れを行い、112 の図書館に寄贈を開始した。

非破壊試験技術者の認証活動として、JIS Z 2305「非破壊試験 - 技術者の資格及び認証」に基づく資格試験を春秋に実施（受験申請者数:25,312 名）した。その結果、認証登録は 12 月現在で 72,392 件（累計）となり、平成 20 年度に引き続いて堅調な増加を示した。なお、NDIS 0601 による資格者の JIS Z 2305 への移行試験は、平成 22 年春期の試験をもって完了した。また、NDIS 0602:2003 に基づく非破壊検査総合管理技術者の認証を実施し、12 名の認証を行い、現在有効な資格登録者数は 154 名となった。さらに、NDIS 0603:2005「超音波探傷試験システムの性能実証における技術者の資格及び認証」に基づく PD 認証制度では、2010 年 3 月現在で 31 名（累積）の PD 技術者を認証した。

国際認証委員会では、JIS Z 2305 資格者の ACCP 資格取得制度において 2009 年 11 月 8 日に ASNT と合意書を交わし、試験実施に向けての準備を開始した。

教育活動として、JIS Z 2305 で要求される訓練を目的とした技術講習会を開催し、2,664 名が受講した。また、「非破壊試験技術講習会」の一環として、探傷技術のより一層の習熟を図ることを目的とした実技講習会を開催し、2108 名の参加者を得た。

平成 22 年度の春期試験より UT 資格認証試験の実技がアナログ探傷器よりデジタル探傷器に移行されるのに伴い、各支部・各地域研究会の 6 地区にて指導員向け・一般向けの講習会を開催した。

出版事業として、出版計画書に基づいて出版物の製作審議、管理、頒布を行った。また、当協会出版物の海外向け出版の検討を行った。

試験片事業として、試験片委員会品質管理マニュアルに基づき試験片の製作、検定、頒布を行うとともに、各種試験片のトレーサビリティ証明書を発行した。また、トレーサビリティに関する議論を重ねた。

標準化活動として、日本非破壊検査協会規格（NDIS）の制定・改正に積極的に取組んだ。JIS については原案の作成、改正及び見直しを行い、その普及に努めた。国際標準化活動は、ISO/TC 135（非破壊試験）の幹事国及び ISO/TC 135/SC 6（漏れ試験）の幹事国として規格策定プロセスの全般管理を担った。国際規格の制定・改正においては ISO/TC 135 の国内審議団体として原案に対する投票を行った。

広報活動として、イメージキャラクター「ルディ」を創り、非破壊評価総合展 2009 会場で初披露を行い、若年層や一般社会人へPR活動を行った。また、更なる「非破壊検査」の知名度向上の手段としてテレビCM放映を企画し、制作した。ホームページについては、リニューアルを図りデザインを一新するとともに、内容の一層の充実を図った。また、WEBシステムを用いて多くの会員に最新情報を提供した（WEBシステム利用者登録(累計)、4,110件）。

最後に、平成 21 年度決算において本協会の財政が健全に保たれたことを報告するとともに、本協会の運営に対する会員はじめ関係各位の多大なご協力に感謝申し上げます。

1. 学術活動

1.1 学術委員会

学術委員会を3回、開催し、以下の検討を行った。

- (1) 講演大会の一層の充実を目的として、各分科会・特別研究委員会・研究会による、オーガナイズドセッションの実施を積極的に行った。
- (2) 高度成長期に整備された社会資本の経年劣化とその維持管理が大きな社会問題となっていることから「急増する経年劣化構造物をどうするか」をテーマに第7回学術セミナーを開催し、参加者が56名であった。
- (3) 技術開発センターでは、模擬 SCC 探傷研究委員会を設置し活動を行っている。本委員会では発電機器で見ついている実機応力腐食割れ (SCC) の探傷を想定し、これまで学術的に報告されている複数の疑似 SCC 付与方法で模擬 SCC 試験体を作製している。作製した試験体は、委員を中心とした機関で分担し、各種超音波法で検出・サイジング性能を検証するとともに、協会の財産としてセンターで管理する。またこれとは別に、SCC の性状やその探傷に係わるこれまでのプロジェクトの詳細や研究成果を、参加委員の講演と言う形で情報提供いただき、調査を進めている。一昨年までは、主にステンレス母材に SCC を導入してきたが、昨年度・本年度は、ステンレス溶接部材へ SCC を導入し、試験体の作製と探傷を試行錯誤している。これらの結果を、委員会でも検討するとともに、SCC 探傷データの整理等を行った。
- (4) 各研究委員会の活動計画を見直し、活性化を図るべく検討した。
- (5) 論文賞、奨励賞及び新進賞の各審査要領について検討した。
- (6) 学術活動の活性化のために、研究奨励金・研究助成事業の関連規則を見直し、平成22年度から実施することとした。
- (7) 学術組織再編WGで、学術組織再編に伴う関連規則を見直し、再編の作業を1月より開始した。

1.2 学術講演大会 (主催)

1.2.1 春季学術講演大会

5月19日(火)~20日(水) 於 アルカディア市ヶ谷 発表議題 88件/特別講演1件 204名参加
--

(注) 開催日で年の記載のない欄：平成21年、以下同じ

1.3 分科会活動

a) 放射線分科会

放射線分科会は、3回の分科会を開催した。発表テーマのオープン化に努め、1回はセミシンポジウムとして開催し、もう1回は放射線シンポジウムとして開催した。デジタルラジオグラフィ実用化を目指し、JIS規格への取込の検討を進め、広く意見を伺うため、その内容及び進捗状況を3回の分科会で報告した。

第1回 7月2日(木)~3日(金) 於 ホテルセントヒル長崎 37名参加, 7件発表・見学
第2回 10月15日(木) 於 京都大学原子炉実験所 43名参加, 5件発表・見学
第3回 平成22年3月4日(木)~5日(金) 於 機械振興会館 54名参加, 18件発表

*第2回は、セミオープンにて開催。

*第3回は、第7回放射線による非破壊評価シンポジウムにて開催。

1) 中性子ラジオグラフィ研究委員会

本年度は委員会を2回開催し、中性子ラジオグラフィ技術及び応用研究の活性化についての情報交換及び議論

を行った。JRR-3Mにおける産業利用に関する活動、京大炉(KUR)再稼働に向けた活動、さらにはJ-PARCに向けたパルス中性子イメージング等についての議論を行った。

第1回 12月10日(木) 於 いばらき量子ビーム研究センター 5名参加
第2回 平成22年1月7日(木)~8日(金) 於 京都大学原子炉実験所 38名参加, 15件発表

2) デジタルラジオグラフィ研究委員会

初心者を対象とした、デジタルラジオグラフィのテキスト作成を計画していたが、年度途中で、水田委員長の職場変更の理由から、委員長の辞退要請があり、7月2日の放射線分科会幹事会で、大阪府大の谷口に委員長が変更された。そのため、今年度後半は実質的に活動休止状態となった。

b) 超音波分科会

次の日程で、4回の分科会(含超音波シンポジウム)を開催した。担当幹事のご尽力により、分科会・シンポジウムとも、多くの参加者と発表者を得て充実した活動ができた。特に第1回分科会は、ガイド波の研究で著名なペンシルバニア州立大学の Joseph L. Rose 教授のグループによる講演を含めて、4件のすべての講演を英語で発表する特別シンポジウムとした。また、第4回分科会の超音波シンポジウムでは、参加人数145名とここ数年間で最大の参加者数となり、最新の研究成果の発表と活発な討議が行われ盛況であった。

第1回 5月11日(月) 於 東京工業大学 39名参加, 4件発表
第2回 6月18日(木)~19日(金) 於 富山国際会議場 41名参加, 10件発表・見学
第3回 10月29日(木) 於 (財)鉄道総合技術研究所 58名参加, 6件発表・見学
第4回 平成22年1月28日(木)~29日(金) 於 きゅりあん 145名参加, 33件発表

*第1回は、レーザー超音波および先進非接触計測技術研究会と非線形超音波研究会との合同で、特別シンポジウムにて開催。

*第4回は、第17回超音波による非破壊評価シンポジウムにて開催。

1) 超音波試験機器研究委員会

フェイズドアレイ装置の性能測定方法のたたき台を作ることを目的として、装置の現状についての話し合い、ASTM E2491の検討、JIS Z 2351やJIS Z 2352との相違の検討などを行った。WGによりたたき台の製作を進めている。また、TOFD法についても装置の側面から検討することが提案されている。

第1回 8月19日(水) 於 JSNDI 会議室 19名参加, 2件発表
第2回 10月14日(水) 於 JSNDI 会議室 12名参加, 2件発表
第3回 平成22年1月13日(水) 於 JSNDI 会議室 9名参加, 3件発表
第4回 平成22年3月17日(水) 於 JSNDI 会議室 9名参加, 2件発表

2) 接合部の超音波探傷研究委員会

TOFD法による溶接部の探傷方法の検討を行い、きず検出および指示長さ測定への適用方法を提案した。音響異方性を有する材料における探傷屈折角推定について検討し集合実験の準備を整えた。TOFD法およびフェイズ

ドアレイ法の適用事例の紹介と溶接部探傷へフェイズドアレイ法の適用方法について検討した。また、JIS Z 3060 改正準備の検討状況をウォッチング中である。

第1回 4月22日(金) 於 JSNDI 会議室 13名参加, 2件発表
第2回 7月3日(金) 於 JSNDI 会議室 15名参加, 3件発表
第3回 9月11日(金) 於 JSNDI 会議室 14名参加, 3件発表
第4回 12月4日(金) 於 JSNDI 会議室 14名参加, 3件発表
第5回 平成22年2月4日(木) 於 JSNDI 会議室 12名参加, 2件発表

3) 超音波に関するISO規格研究委員会

ISO 委員会 TC135/SC3 (超音波) 関連規格及び日本溶接協会からの検討依頼のあったISO/TC44 (溶接) / SC5 (試験・検査) のうちの超音波関連規格に対して、制定、改正及び見直しの審議を行った。また、JIS、NDIS 等の国内規格と ISO 等国际規格の整合性の検討を行った。

第1回 4月20日(月) 於 JSNDI 会議室 8名参加, 4件発表
第2回 8月28日(金) 於 JSNDI 会議室 5名参加, 3件発表
第3回 12月10日(木) 於 JSNDI 会議室 5名参加, 6件発表

4) 低周波超音波計測研究委員会

コンクリートへの適用を考慮に入れつつ、一般的な低周波超音波の音場特性並びに不均一高減衰材料中の超音波の伝搬特性の解明を行い、低周波超音波計測のための装置と測定方法に関する調査研究を進めた。また、昨年度実施した共通計測結果を中心に委員会報告書を取り纏めた。

第1回 4月6日(月) 於 東京工業大学 14名参加, 4件発表
第2回 9月18日(金) 於 東京工業大学 8名参加, 3件発表
第3回 12月17日(木) 於 大阪産業大学 8名参加, 4件発表
第4回 平成22年3月31日(水) 於 JSNDI 会議室 13名参加, 2件発表

5) フェイズドアレイ規格検討委員会

発電設備を中心に実用が進められているフェイズドアレイ法は、他の分野でも適用が検討され一部実用化が進められている。これらの背景の下で、フェイズドアレイ技術についての規格作成の要望が高まってきており、これを受ける形で本委員会が活動している。本委員会は、平成19年度の本委員会で、フェイズドアレイの規格の用途や適用分野について調査・検討を行う適用分野検討WG、規格作成のための技術要件を検討、検証するための技術要件抽出WG、直接規格を作成する規格WGの3つで構成する基本構想を合意した。この計画に従って、平成20年度の適用分野検討WGのとりまとめを受ける形で、平成21年度は主に技術要件抽出WGが一部実験やシミュレーションを含めた、規格作成に必要な要件抽出についての活動を行った。

c) 表面探傷分科会

下表の日程で2回の分科会と1回のオープンシンポジウムを開催した。特に、3回目のシンポジウムは、安全・安

心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウムとして、新素材の非破壊評価特別研究委員会と合同で開催し多くの研究発表と参加者を得、活発な議論と情報交換が行われた。

第1回 7月10日(金) 於 東京都産業技術研究センター 40名参加, 9件発表
第2回 10月29日(木)～30日(金) 於 青森職業能力開発短期大学校 16名参加, 7件発表・見学
第3回 平成22年3月18日(木)～19日(金) 於 独立行政法人 産業技術総合研究所 141名参加, 30件発表(内特別講演4件)・見学

1) 渦電流探傷研究委員会

ISO 規格の上置プローブ特性評価方法の研究を始めた。特性評価のための回送用試験体を製作しユーザーやメーカー、研究機関等によりデータ修得・検討を行っている。

第1回 5月11日(月) 於 JSNDI 会議室 4名参加, 2件発表
第2回 9月8日(火) 於 JSNDI 会議室 7名参加, 2件発表
第3回 12月10日(木) 於 JSNDI 会議室 6名参加, 3件発表
第4回 平成22年3月23日(火) 於 JSNDI 会議室 4名参加, 1件発表

2) 漏れ試験研究委員会

漏れ試験(LT)の資格認証制度確立の為、漏れ試験認証準備WGが正式に発足し、参考書籍「漏れ試験の基礎と応用」の執筆査読活動、及び試験問題調査と作成(試作)、NDIS 漏れ試験方法通則、NDIS 漏れ試験技術者の資格及び認証案の準備等の活動を行なった。国内規格としてはZ 2330 (ヘリウム漏れ試験の種類と選択) 及びZ 2332 (放置法による漏れ試験方法) の改正に向けて、日本規格協会へ公募申請を行い、2010.4よりJIS改正委員会設置の運びとなった。これらの活動の中心が認証であるため、漏れ試験研究委員会は12月までとした。以降、LT 認証準備WG 開催時に一部の時間を利用し、漏れ試験研究委員会に関わる審議・発表を行った。一例としては、超音波漏れ試験法の試験片による検出限界の実験を行い、この結果はテキストレベル2への掲載を予定している。また、平成22年度春季講演大会におけるLTのオーガナイズドセッションの参加が決まっている。

第1回 5月12日(火) 於 JSNDI 会議室 8名参加
第2回 7月3日(金) 於 JSNDI 瑞江センター 9名参加
第3回 9月4日(金) 於 JSNDI 会議室 10名参加
第4回 12月2日(水) 於 JSNDI 会議室 10名参加

3) 磁粉探傷研究委員会

A 形標準試験片が試験体表面の有効磁界の強さの測定に適用可能かを検討するため、SS400 鋼板を極間式磁化器で磁化した際の漏洩磁束密度の分布を実験的、理論的に調べた。

第1回 6月11日(木) 於 JSNDI 会議室 6名参加, 2件発表
第2回 10月1日(木) 於 JSNDI 会議室 6名参加, 2件発表

第3回 12月17日(木) 於 JSNDI 会議室 5名参加, 2件発表
第4回 平成22年2月22日(月) 於 JSNDI 会議室 5名参加, 1件発表

d) 応力・ひずみ測定分科会

春季大会でオーガナイズドセッション「バイオメカニクスと生体機能計測技術」を企画し、研究活動の活性化をはかった。以下に分科会(2回)とシンポジウム(1回)の開催の実施日、参加人数、発表件数を示す。

第1回 7月17日(金) 於 青山学院大学 19名参加, 3件発表・研究室見学
第2回 10月23日(金) 於 岡山大学 9名参加, 4件発表
第3回 平成22年1月8日(金)~9日(土) 於 大田区産業プラザ 65名参加, 36件発表

*第3回は、第41回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウムとして、学術講演会を行うとともに、(財)大田区産業振興協会より後援を頂き、工場見学会などを企画して交流を深め活性化をはかった。

1) 応力可視化研究委員会

主に応力塗料の性能向上及び応用技術の開発について研究活動を行った。新しく発表された応力塗料のひずみ感度特性を調査するとともに、塗料の適用例や各種ひずみ測定についても情報交換した。

第1回 12月10日(木) 於 関東学院大学 7名参加, 3件発表
第2回 平成22年3月15日(月) 於 京都平安会館 6名参加, 3件発表

2) バイオメカニクス研究委員会

春季大会で、オーガナイズドセッション「バイオメカニクスと生体機能計測技術」を企画すると共に委員会を開催し、会員の増員活動と研究の活性化をはかった。

第1回 5月21日(木) 於 アルカディア市ヶ谷 30名参加, 14件発表
--

1. 4 特別研究委員会活動

a) 保守検査特別研究委員会

第1回 10月2日(金) 於 機械振興会館 23名参加, 6件発表
第2回 平成22年3月4日(木)~5日(金), 於 機械振興会館 41名参加, 13件発表

*第2回は、第8回保守検査シンポジウムにて開催。

b) 画像処理特別研究委員会

第1回 12月3日(木)~12月4日(金) 於 パシフィコ横浜 410名参加(5名), 61件発表・特別講演・基調講演・パネル討論
第2回 平成22年3月4日(木)~3月5日(金) 於 びゅあ総合 甲府 161名参加(6名), 54件発表・特別講演・機器デモ展示

*()内は特別研究委員会委員参加人数(内数)

*第1回は共同企画(ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW2009)として開催。

*第2回は共同企画(動的画像処理実利用化ワークショップ DIA2010)として開催。

c) アコースティックエミッション特別研究委員会

第1回 8月28日(金)~29日(土) 於 東北大学大学院工学研究科青葉記念会館 55名参加, 31件発表(内特別講演1件)
--

第2回 平成22年4月16日(金) 於 JSNDI シンポジウム会議室 16名参加, 3件発表

*第1回は、第17回アコースティック・エミッション総合コンファレンスにて開催。

d) 新素材の非破壊評価特別研究委員会

第1回 11月27日(金) 於 JSNDI 会議室 18名参加, 7件発表
第2回 平成22年3月18日(木)~19日(金) 於 独立行政法人 産業技術総合研究所 141名参加, 30件発表(内特別講演4件)・見学

*第2回は、安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウムとして、表面探傷分科会と合同で開催。

f) 赤外線サーモグラフィによる非破壊評価特別研究委員会

第1回 8月4日(火) 於 防衛大学校 22名参加, 4件発表・見学
第2回 平成22年1月15日(金) 於 東京都産業技術研究センター 51名参加, 16件発表

*第2回は、東京都産業技術研究センターと共催開催。

e) 鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験特別研究委員会

第1回 5月18日(月) 於 土木研究所 60名参加, 4件発表・実演
第2回 8月5日(水)~6日(木) 於 日本大学 駿河台校舎 221名参加, 74件発表
第3回 10月25日(日)~27日(火) 於 長崎・平戸 13名参加, 見学
第4回 平成22年4月27日(火) 於 学士会館 25名参加, 5件発表

*第2回は、第3回シンポジウム「コンクリート構造物の非破壊検査」にて開催。

1. 5 研究会活動

a) 電界計測を基盤とする非破壊評価高度化研究会

第1回 7月10日(金) 於 JSNDI 会議室 10名参加, 3件発表
第2回 10月30日(金) 於 宇宙航空研究開発機構 10名参加, 2件発表・見学
第3回 平成22年3月26日(金) 於 三菱重工業(株)本社横浜ビル 11名参加, 2件発表・見学

b) レーザ超音波および先進非接触計測技術研究会

第1回 5月11日(月) 於 東京工業大学 39名参加, 4件発表
第2回 8月10日(月)~11日(火) 於 富山大学 27名参加, 8件発表・研究室見学
第3回 平成22年4月12日(月) 於 JSNDI 会議室 20名参加, 4件発表

*第1回は、超音波分科会と非線形超音波研究科との合同で、特別シンポジウムを開催。

*第2回は、非線形超音波研究会と合同開催。

c) 非線形超音波研究会

第1回 5月11日(月) 於 東京工業大学 39名参加, 4件発表

第2回 8月10日(月)～11日(火) 於 富山大学 27名参加, 8件発表・研究室見学
第3回 平成22年3月9日(火) 於 大阪大学 30名参加, 7件発表

*第1回は、超音波分科会と非線形超音波研究科との合同で、特別シンポジウムを開催。

*第2回は、レーザー超音波および先進非接触計測技術研究会と合同開催。

1.6 国際学術委員会

- (1) 2009年11月8日～13日に、パシフィコ横浜で開催された、第13回 APCNDT 実行委員会に対して側面から支援を行った。
- (2) 2010年6月8日～11日にハワイ(マウイ島)で開催を予定している第4回日米シンポジウムの準備作業に対して側面から支援を行った。
- (3) 友好協定を締結している海外の学協会等と会誌交換などを行い、情報交換に努めた。

1.7 APCNDT実行委員会

2009年11月8～13日にパシフィコ横浜において第13回アジア・太平洋非破壊試験会議(APCNDT2009)を開催した。日本をはじめ35カ国から331名(招待者、出展社を含む)の参加者を得て、178件の学術講演(特別講演を含む)及び国内外の23社(団体を含む)の展示が行われた。また、ICNDT PGPCをはじめ多数の関連会議が併催された。

1.8 第4回日米シンポジウム組織委員会

米国非破壊検査協会(ASNT)と共催による、通算4度目の日米2国間の非破壊試験シンポジウムの開催に向けて、ASNTの秋季大会と併せて組織委員長会議を行った。特別講演を含め、ASNTから35件、JSNDIから39件の講演申込があった。同シンポジウムは、2010年6月7～11日の5日間、Makena Beach & Golf Resort(米国ハワイ州マウイ島)で開催される。

1.9 学術講演・セミナー(共催・協賛・後援)

日本学術会議他、関連各学協会等からの依頼による共催、協賛、後援及び共同企画を受諾した。

a) 共催

1. 原子力総合シンポジウム2010 運営委員会原子力総合シンポジウム2010.5.26-28
2. 日本設備管理学会平成21年度春季研究発表大会2009.6.18-19
3. 日本アイトープ協会第47回アイトープ・放射線研究発表会2010.7.7-9
4. 日本学術会議安全工学シンポジウム実行委員会安全工学シンポジウム2010.7.8-9
5. 日本学術会議材料工学委員会第54回材料工学連合講演会2010.10.25-27

b) 特別協賛

1. 日本能率協会ものづくりNext↑2010 特別企画「非破壊検査フェア」2010.11.17-19

c) 協賛

1. 日システム制御情報学会センシング技術応用セミナー「先端センシング技術の最新動向と将来展望」2007.6.5
2. 化学工学会関東支部第13回材料セミナー「化学産業分野における腐食モニタリング技術とその活用」2007.6.11

3. 腐食防食協会第166回腐食防食シンポジウム2009.6.12
4. 日本非破壊検査工業会第5回日本非破壊検査工業会技術者討論会2009.7.9
5. 可視化情報学会第37回可視化情報シンポジウム2009.7.21-22
6. 物質・材料研究機構 NIMS WEEK 200 企画実行委員会 NIMS WEEK 2009 “次世代医療を開拓するナノ材料”2009.7.21-24
7. 日本学術会議材料工学委員会材料構造化コンバージョン・テクノロジー分科会日本学術会議シンポジウム「ものづくりの持続的なイノベーションに向けた基盤科学技術提言」2009.7.23
8. 腐食防食協会第49回技術セミナー「腐食を理解するための電気化学入門」2009.7.23
9. 日本機械学会 No.09-60 講習会「3次元CADによる『設計の自動化・効率化』入門」2009.7.28
10. 日本材料学会第39回初心者のための有限要素法講習会(演習付き)2009.7.30-31(1部),8.20-21(2部)
11. 日本高圧力技術協会第8回圧力機器および配管におけるカスケッドフランジ締結体のシーリングテクノロジー2009.8.20-21
12. 腐食防食協会第36回セッション・セミナー 実務役立つ腐食防食の基礎2009.8.26-28
13. 日本材料学会第9回初心者のための疲労設計講習会2009.8.27-28
14. 日本材料学会第10回初心者のための疲労設計講習会2009.9.3-4
15. 日本機械学会講習会(No.09-70)「革新的ものづくりのための最適設計法入門」2009.9.7-8
16. 腐食防食協会第50回技術セミナー2009.9.11
17. 溶接学会平成21年度溶接入門講座2009.9.15
18. 計測自動制御学会第26回センシングフォーラム計測部門大会2009.9.28-29
19. 日本高圧力技術協会 HPI 技術セミナー「超音波による欠陥寸法測定-非破壊検査の新しい展開-」2009.10.1-2(東京)12.9-10(大阪)
20. 日本保全学会第8回保全セミナー2009.10.6
21. センシング技術応用研究会マイクロデバイス作製実習講座2009.10.19-23
22. 日本材料学会第14回破壊力学シンポジウム2009.10.23-24
23. 可視化情報学会全国講演会(米沢2009)2009.10.24-25
24. 日本溶接協会保全技術者に役立つ新しい「フロント圧力設備の溶接補修指針」シンポジウム2009.11.5-6
25. 日本材料学会第11回初心者のための疲労設計講習会2009.11.10-11
26. 有機テクノロジー実行委員会カガテクノ2009(有機テクノロジー展/有機テクノロジー国際会議)2009.11.10-11
27. 日本機械学会 No.09-122 講習会「ICタグ活用入門-生産効率向上から廃棄物処理まで-」2009.11.11
28. 放射線利用振興協会第13回放射線プロセスシンポジウム2009.11.12-13
29. 溶接学会溶接構造シンポジウム2009「クリーンエネルギーを取り巻く新潮流と溶接構造化技術」2009.11.17-18
30. 日本高圧力技術協会 HPI 技術セミナー第7回事故から学ぶリスクマネジメント2009.11.18-19
31. 溶接学会東部支部第37回溶接学会東部支部実用溶接講座(見学会&講演会)2009.11.19

32. 超音波シボジウム運営委員会第 30 回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシボジウム 2009. 11. 18-20
 33. 日本能率協会メンテナンス・テクノロジー 2009 2009. 11. 18-20
 34. 溶接学会平成 21 年度溶接入門講座 (広島開催) 2009. 11. 19-20
 35. システム制御情報学会第 52 回自動制御連合講演会 2009. 11. 21-22
 36. 日本光学会 (応用物理学会) Optics & Photonics Japan 2009. 11. 24-26
 37. 日本高圧技術協会 HPI 技術セミナー第 19 回「圧力設備の材料、設計、施工、維持管理」 2009. 11. 26-27
 38. 腐食防食協会第 35 回腐食防食入門講習会 2009. 11. 26-27
 39. 日本機械学会 産業・化学安全部門研究発表講演会 2009. 11. 27
 40. 日本実験力学学会 4th International Symposium on Advanced Fluid/ Solid Science and Technology in Experimental Mechanics 2009. 11. 28-30
 41. 溶接学会溶接法セミナー「溶接プロセスの高機能化にむけた新しい展開」 2009. 12. 8
 42. Car Testing Japan 2009 実行委員会 Car Testing Japan 2009. 12. 8-10
 43. 日本材料学会第 24 回信頼性シボジウム 2009. 12. 10-11
 44. 日本プラントメンテナンス第 49 回設備管理全国大会 (TPM Conference 2009) 2009. 12. 10-11
 45. 日本材料学会第 29 回疲労講座[「疲労の基礎と応用」 2009. 12. 11
 46. 腐食防食協会第 168 回腐食防食シボジウム「超臨界水及び亜臨界水を用いるプロセスにおける材料問題」 2009. 12. 17
 47. 腐食防食協会第 168 回腐食防食シボジウム「
 48. 日本材料学会第 46 回 X 線材料強度に関する討論会 2010. 1. 8
 49. 日本保全学会第 2 回連携講演会「検査・評価・保全に関する連携講演会」 2010. 1. 18-19
 50. 日本ガスタービン学会第 38 回 GTSJ ガスタービンセミナー 2010. 1. 21-22
 51. 大阪ニュークリアサイエンス協会第 19 回放射線利用総合シボジウム 2010. 1. 22
 52. 腐食防食協会第 167 回腐食防食シボジウム「寿命予測技術の現状と問題点」 2010. 1. 22
 53. 全空間画像計測コンソーシアム第 1 回全空間画像計測シボジウム 2010. 1. 27
 54. 産業技術総合研究所計測フロンティア研究部門第 6 回シボジウム「ものづくり日本を支える先端計測技術」 2010. 1. 28
 55. 溶接学会 Mate 2010 /第 16 回「エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術」シボジウム 2010. 2. 2-3
 56. 日本高圧力技術協会 HPI 技術セミナー「第 10 回エネルギー貯槽等技術基準と安全性」 2010. 2. 4-5
 57. 腐食防食協会第 51 回技術セミナー「腐食防食専門士による第 2 回腐食防食技術実践・応用セミナー」 2010. 2. 9
 58. 日本高圧力技術協会 HPI 技術セミナー「第 8 回リスクヘラスメンテナンスの基礎と応用：関連 HIPS の解説」 2010. 2. 22
 59. 日本材料学会第 12 回機械・構造物の強度設計、安全性評価に関するシボジウム 2010. 2. 25-26
 60. 日本光学会第 5 回光応用新産業創出フォーラム 2010. 2. 26
 61. 日本材料学会第 1 回日本複合材料合同会議 JCOM-39/JSCM2010. 3. 9-11
 62. 日本保全学会第 9 回保全セミナー「状態監視技術～保全への活用 (海外・他産業事例を交えて)～」 2010. 3. 30
 63. 日本溶接協会産報出版 2010 国際ウェルディングショー 2010. 4. 21-24
 64. 日本真空協会関西支部第 46 回真空技術基礎講習会 2010. 5. 25-28
 65. 溶接学会平成 22 年度溶接入門講座 (東京開催) 2010. 6. 2-3
 66. 日本鉄鋼協会第 201・202 回西山記念技術講座「鋼管の製造技術の現状と将来」 2010. 6. 4, 18
 67. 画像センシング技術研究会 SSII2010 (第 16 回画像センシングシボジウム) 2010. 6. 9-11
 68. 日本機械学会第 6 回日本・中国・韓国構造および機械システムの最適化シボジウム 2010. 6. 22-25
 69. 日本材料学会第 44 回 X 線材料強度に関するシボジウム 2010. 7. 8-9
 70. 日本保全学会第 7 回学術講演会 2010. 7. 13-15
 71. 可視化情報学会第 38 回可視化情報シボジウム 2010. 7. 20-21
 72. 日本実験力学学会 2010 年度年次講演会 2010. 8. 17-19
 73. 日本実験力学学会 The 5th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics 2010. 11. 4-7
- d) 後援
1. 日本溶接協会第 43 回国内シボジウム「原子力発電プラントにおける疲労設計のあり方を考えるシボジウム」 2009. 6. 12
 2. 日本溶接協会「ステンレス鋼溶接施工におけるトラブル事例とその原因・対策」講習会 2009. 9. 17
 3. 日本継手協会鉄筋継手工事標準仕様書改訂講習会 2009. 10. 15、他
 4. 日本鉄筋継手協会平成 21 年度調査研究発表会 (大阪) 2009. 10. 22
 5. 日本溶接協会「ステンレス鋼溶接施工におけるトラブル事例とその原因・対策」講習会 2009. 12. 3
 6. 日本溶接協会原子力構造機器の材料、設計、施工、検査、維持に関する講習会 2009. 12. 8-9
 7. 日本溶接協会第 44 回原子力国内シボジウム「地球温暖化防止に向けた原子力エネルギーを考える・実力を発揮するために」 2010. 2. 16
 8. 日本鉄筋継手協会法人設立 45 周年記念ハネデ・イノベーション「鉄筋継手の未来」 2010. 5. 25
 9. 日本材料学会第 10 回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシボジウム 2010. 10. 29
- e) 共同企画
1. 精密工学会動的画像処理実利用化ワークショップ[®] 2010. 3. 4-5
1. 10 編集委員会
- 機関誌「非破壊検査」第 58 巻 4 号～59 巻 3 号までの編集を行い、毎月 1 日に各 4,400 部を刊行した。
- 平成 21 年度は、以下の点を検討の上、実施した。
- (1) 特集企画と連載企画の充実化を進め、会員の興味が持てる記事編集を推進した。
- ・特集題名：
58 巻 4 号 「非破壊・微破壊試験によるコンクリート構

- 造物の品質検査」
- 58 巻 5 号 「配管の検査技術」
- 58 巻 6 号 「ラジオグラフィを支えるマイクロフォーカス X 線」
- 58 巻 7 号 「非接触超音波法の展開」
- 59 巻 8 号 「2008 年度活動報告〔特集記事はお休み〕」
- 58 巻 9 号 「非線形超音波法による非破壊検査・評価 II」
- 58 巻 10 号 「高輝度放射光によるマイクロ CT 解析技術」
- 58 巻 11 号 「非破壊検査技術の保守検査への適用例 IX」
- 58 巻 12 号 「カラーイメージインテンシファイア」
- 59 巻 1 号 「第七回学術セミナー（急増する経年劣化構造物をどうするか）」
- 59 巻 2 号 「中性子イメージングの新たな展開（1）」
- 59 巻 3 号 「中性子イメージングの新たな展開（2）」
- (2) 投稿原稿を発表できる機会を増やすために、投稿原稿の募集に努力した。具体的には、春秋講演大会及び各分科会、特別研究委員会の主催するシンポジウム等の発表者に対して、論文投稿の呼びかけを行った。結果として掲載は、学術論文 18 件となった。
- (3) J-Stage 利用による機関誌掲載論文の Web 公開を推進した。
- (4) 英文論文誌提携誌の「Materials Transactions」への英文論文投稿を推進した。
- (5) 機関誌誌面の刷新を図るため、表紙および本文ページデザインの全面改訂を行うと共に、掲載誌面の統一を図るために、論文及び解説記事の図表の品質の向上を推進した。
- (6) 再生紙や植物性インクを使用するなど環境に配慮した機関誌作りを推進した。
- (7) 編集作業効率向上と編集経費の効率的運用とを図るため、電子メールの活用による委員会運営を実施し、編集作業の一部で、時間短縮による効率化を実現した。また、委員会開催回数の削減を実行した。
- (8) 59 巻 1 号より、全国に国公立の大学及び工業高等専門学校附属図書館に対して、永続的な機関誌の寄贈の申し入れを行い、受け入れの回答を得た全国の 112 の図書館に対して寄贈を開始した。
- (9) 論文投稿者の便宜を図ると共に、投稿論文校閲作業の効率化を目的として、将来の電子投稿システム構築を踏まえて、まずは、電子メールによる論文投稿の受付を試行的し、併せて、電子投稿導入に予備検討に入った。

2. 広報活動

2. 1 広報活動委員会

- (1) ホームページのリニューアルを図り、デザインを一新するとともに内容について更なる充実を図った。
- (2) 平成 17 年度から運用を開始した WEB システム（電子メールを活用した情報発信（メールマガジン）サービス）の利用者登録者数が累計で、4,110 件となった。また、メールマガジンの購読者数として、学術活動：243 名、教育活動・講習会：430 名、資格試験：479 名、書籍・試験片・頒布品：285 名となった。
- (3) イメージキャラクタ「ノンディ」を創り、非破壊評価総合展 2009 の初日（2009 年 11 月 18 日）において、この初披露・紹介を兼ねて記者発表を行った。また、「ノンディ」を活用しての広報活動を促進するため、各種ノベルティグッズを制作し、展示会来場者をはじめとする多くの方々に広く配布を行った。

- (4) これまで「非破壊検査」と無縁であった方々に対して、「非破壊検査」を知ってもらうか、また、次世代を担う若年層の非破壊検査に関する関心を喚起するための方策の検討を繰返した結果、テレビ CM の放映が必要と考へ、その制作を行った。
- (5) 各種マスメディアへの PR 活動を積極的に行った。

3. 教育活動

3. 1 教育委員会

委員会を 5 回開催し、以下の活動を行った。

- (1) デジタル超音波探傷器の導入について、教育の担当委員が導入 WG に加わって検討した。
- (2) 漏れ試験技術講習会の開催について検討した。
- (3) 赤外線サーモグラフィ技術講習会の開催について検討した。
- (4) 教育用参考書の改訂
次の教育用参考書について、改訂版を発行した。
・放射線の取扱い ・エックス線作業主任者テキスト
・エックス線作業主任者試験公表問題の解答と解説
・超音波厚さ測定 I
・超音波探傷試験実技参考書「デジタル超音波探傷器編」
・磁粉探傷試験 I ・磁粉探傷試験 III
・磁粉探傷試験問題集
・ひずみ測定 III ・ひずみ測定問題集
- また、改訂作業中の教育用参考書は以下の通りです。
・磁粉探傷試験実技参考書
・浸透探傷試験問題集
・赤外線サーモグラフィ試験 I
・赤外線サーモグラフィ試験 II
・赤外線サーモグラフィ試験問題集
・漏れ試験 I
・AE による動機械の診断実技参考書

(5) 教育・講習会の実施

1) JIS Z 2305 の教育訓練

JIS Z 2305 で要求される訓練を実施し、訓練実施記録を発行した。

レベル	部門	受講者数		受講者 総計
		春期	秋期	
3	基礎	4 2	2 6	6 8
	RT	9	*	9
	UT	1 6	1 4	3 0
	MT	8	*	8
	PT	1 7	*	1 7
	ET	*	—	0
	SM	*	—	0
2	RT	5 5	6 2	1 1 7
	UT	1 0 3	1 0 8	2 1 1
	MT	1 0 4	1 0 0	2 0 4
	PT	2 6 1	2 5 3	5 1 4
	ET	5 2	3 4	8 6
	SM	—	2 8	2 8
1	RT	5 1	3 6	8 7
	UT	1 6 0	1 5 6	3 1 6
	UM	7 6	6 8	1 4 4
	MT	1 3 0	1 2 3	2 5 3
	PT	2 4 0	2 6 8	5 0 8
	ET	2 2	2 3	4 5
SM	—	1 9	1 9	
合 計		1 3 4 6	1 3 1 8	2 6 6 4
前年度受講者数		1 4 2 9	1 1 8 6	2 6 1 5

注) —— : 当初から開催計画のないもの。

* : 受講者が少なく開催を取りやめたもの。

2) 実技講習会

「非破壊検査技術講習会」の一環として、探傷技術のより一層の習熟を図ることを目的とした実技講習会を2地区(東京・大阪)で開催した。

- | | | |
|--------------|-----|------|
| ①放射線透過試験レベル2 | 参加者 | 229名 |
| ②超音波探傷試験レベル2 | 参加者 | 299名 |
| ③超音波探傷試験レベル1 | 参加者 | 186名 |
| ④磁粉探傷試験レベル2 | 参加者 | 360名 |
| ⑤磁粉探傷試験レベル1 | 参加者 | 32名 |
| ⑥浸透探傷試験レベル2 | 参加者 | 746名 |
| ⑦渦流探傷試験レベル2 | 参加者 | 220名 |
| ⑧渦流探傷試験レベル1 | 参加者 | 9名 |
| ⑨ひずみ測定レベル2・1 | 参加者 | 27名 |

3) NDIS 0602:2003 に基づく非破壊検査総合管理技術者の認証のための「非破壊検査による品質管理等に関する講習会」を東京で開催した。

参加者 16名

4) 「ボス供試体の作製方法及び圧縮強度試験方法(NDIS 3424)」講習会を千葉・茨城で開催した。

参加者 163名

5) 「国土交通省職員の非破壊検査研修」を東京で開催した。

参加者 17名

6) JSNDI 仕様デジタル超音波探傷器の指導員向け講習会、一般向け説明会を開催した。

参加者 89名(指導員向け講習会)

参加者 145名(一般向け説明会)

7) その他の講習会、セミナー、研修会

①日本航空学園委託講習会

・日本航空専門学校(千葉) 参加者 15名

(6) 国際教育関連

1) アジア諸国との非破壊試験に関するワークショップを11月9日～11日に横浜で開催し、13カ国(韓国、中国、台湾、バングラデッシュ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、インド、スリランカ、モンゴル、ベトナム、ミャンマー、シンガポール)が参加した。

2) IAEA/RCA NDT ナショナルコーディネーターミーティング(NDT代表者会議)に関し、参加依頼がなかったため参加しなかった。

3) 試験体製作ワークショップ及びIAEA主催の各種ワークショップ及びセミナーに関しては、要請がなかったため専門家を派遣しなかった。

4. 標準化活動

経済産業省産業技術環境局及び日本規格協会等の関係学協会と緊密に連携し、以下の活動を行った。

4.1 標準化委員会

5回の本委員会を開催し、以下の事項について審議、検討した。

(1) 標準化業務計画に係る5年見直し対象となるJISの要望措置の確認

(2) 5年見直し対象となるNDISの確認

(3) JIS及びNDIS原案作成提案書の審議

(4) JIS及びNDIS原案の照査

(5) 標準化関連規則の見直し

(6) 各専門別委員会からの報告等

4.2 規格の作成状況

4.2.1 JIS関連

(1) 次のJISについてJIS原案作成準備WGで検討した。

・JIS Z 2320-1 磁粉探傷試験—第1部:一般通則(改正)

・JIS Z 2320-2 磁粉探傷試験—第2部:検出媒体(改正)

・JIS Z 2320-3 磁粉探傷試験—第3部:装置(改正)

・JIS Z 2330 ヘリウム漏れ試験方法の種類及びその選択(改正)

・JIS Z 2332 放置法による漏れ試験方法(改正)

・JIS Z 3050 パイプライン溶接部の非破壊試験方法(改正)

・JIS Z 3060 鋼溶接部の超音波探傷試験方法(改正)

・JIS Z 3070 鋼溶接部の超音波自動探傷方法(改正)

・JIS Z 4560 工業用γ線装置(改正)

(2) 次のJISについてJIS原案作成委員会で審議、検討した。

・JIS Z 2343-5 浸透探傷試験—第5部 50℃より高い温度での浸透探傷試験(制定)

・JIS Z 2343-6 浸透探傷試験—第6部 10℃より低い温度での浸透探傷試験(制定)

・JIS Z 2323 非破壊試験—浸透探傷試験及び磁粉探傷試験—観察条件(改正)

・JIS Z 2351 超音波探傷器の電気的性能測定方法(改正)

・JIS Z 2352 超音波探傷装置の性能測定方法(改正)

・JIS Z 2354 超音波パルス反射法による固体の超音波減衰係数の測定(改正)

(3) 次のJISが、日本工業標準調査会の審議を経て公示された。

・JIS Z 2300:2009 非破壊試験用語(改正)

・JIS Z 2343-2:2009 非破壊試験—浸透探傷試験—第2部:浸透探傷剤の試験(改正)

4.2.2 NDIS関連

(1) 次のNDISについてNDIS原案作成委員会で審議、検討した。

・NDIS3430 電磁誘導法によるコンクリート構造物の鉄筋探査試験方法(制定)

・NDIS2427 ガイド波を用いたパルス反射法による配管の探傷試験方法通則(制定)

・NDIS3429 電磁波レーダ法によるコンクリート構造物の鉄筋探査試験方法(制定)

・NDIS3431 漏れ試験方法通則(制定)

・NDIS3418 コンクリート構造物の目視試験方法(改正)

・NDIS3419 ドリル削孔粉を用いたコンクリート構造物の中性化深さ試験方法(改正)

・NDIS3424 ボス供試体の作製方法及び圧縮強度試験方法(改正)

・NDIS4104 動ひずみ測定器の性能試験方法及び性能表示(改正)

・NDIS4108 電気抵抗ひずみゲージの性能特製表示(改正)

(2) 次のNDISを制定した。

・NDIS0604 赤外線サーモグラフィ試験—技術者の資格及び認証(2009.9.7制定)

・NDIS3427 赤外線サーモグラフィ試験方法通則(2009.9.7制定)

・NDIS3428 赤外線サーモグラフィ法による建造物表層における変状評価のための試験方法(2009.9.7制定)

・NDIS2426-1 コンクリート構造物の弾性波による試験方法 第1部 超音波法(2009.6.29制定)

・NDIS2426-2 コンクリート構造物の弾性波による試験方法 第2部 衝撃弾性波法(2009.6.29制定)

- ・NDIS2426-3 コンクリート構造物の弾性波による試験方法 第 3 部 打音法(2009. 6. 29 制定)

4. 3 国際標準化関連

4.3.1 ISO委員会

ISO/TC 135(非破壊試験)の国内審議対応委員会として、本委員会 1 回及び分科会 1 回を開催すると共に TC 44(溶接)、TC 17(鋼)及び TC 79/SC 11(チタン)等の国内審議団体と緊密に連携し、以下の活動を行った。

- (1)各 SC の活動に対する国内対応 (規格原案の審議を含む) 国際規格原案への投票及び検討依頼に対する回答
TC 135 関連

・ Final drat International Standard(FDIS)	1 件
・ Drat International Standard(DIS)	2 件
・ New work Item Proposal(NWIP)	1 件
・ Systematic review of International Standard	8 件
・ その他の投票	10 件

TC 44 等からの依頼

・ Final drat International Standard(FDIS)	4 件
・ Drat International Standard(DIS)	2 件
・ New work Item Proposal(NWIP)	6 件
・ Systematic review of International Standard	5 件
・ その他の回答	1 件

- (2) ISO 国際会議への派遣

以下の会議へ委員を派遣した。

- ・ ISO/TC 135/SC 7/WG 7
期日:2009年7月25日
場所:プラハ (チェコ)
- ・ ISO/TC 135/WG 3
期日:2009年9月17日
場所:マドリッド (スペイン)
- ・ ISO/TC 135/SC 8
期日:2009年11月12日
場所:横浜

- (3) JISC への協力

国際標準化活動実績調査及び国際標準化活動基盤強化アクションプランのフォローアップ等

4.3.2 ISO/TC 135 幹事国業務

平成 21 年度における ISO/TC 135「非破壊試験」幹事国業務の概要は、下記の通りである。

- (1) 非破壊試験技術者の資格・認証に関する ISO 規格 ISO 9712 と CEN 規格 EN 473 の完全な整合化を目指して ISO と CEN の垣根を越えて、ISO/TC 135 と CEN/TC 138「非破壊試験」が共同で合同ワーキンググループ (JWG)「認証規格の整合化」を設置した。その第一回目の会合を 2009 年 9 月にスペイン・マドリッドで開催し、羽田野議長と土屋幹事がそれぞれ JWG の共同議長と共同幹事として出席した。会議では両規格の主要な相違点の総括と、その対応策を審議した。
- (2) 上記会議の前日に、TC 135/SC 7「技量認定」の議長代理を務める Robichaud 氏と協議した。上記整合化に関する意見交換を行い、JWG に臨む際の ISO 側としての基本方針を確認した。
- (3) また上記の会議の翌日に開催された CEN/TC 138 会議に、ウィーン協定に基づく ISO/TC 135 の代表として羽田野議長と土屋幹事が出席した。ISO/TC 135 の活動報告を行うとともに、欧州からの会議出席者と意見交換を行った。
- (4) 2009 年 5 月にブラジル・サルバドールで、第 10 回

Coteq(Conference on Equipment Technology)会議に併せて ISO/TC 135/SC 9「AE 試験」の会議が開催され、羽田野議長が出席した。SC 9 の会議及び幹事国業務に関する指導と助言を行うとともに、第 10 回 Coteq の開会式では ISO/TC 135 を代表して祝辞と、SC 9 会議を併催してくれたことに対する謝意を表した。

- (5) 2010 年 1 月にインド・チェンナイで開催された第 20 回 INSAC(20th Annual Conference of Indian Nuclear Society)会議に、インド原子力学会からの招待により羽田野議長が出席し、ISO/TC 135 の活動状況に関する招待講演を行った。さらに、インディラ ガンジー原子力研究所及びインド非破壊試験学会チェンナイ支部からの、それぞれの招待による講演も行った。

ISO ではご高承のように、新興国の重要性がますます増大しつつある。上記(4)と(5)は諸般の事情により議長の個人的な責任と負担による外国出張になったが、これら関係者の ISO/TC 135 への理解と協力を得るまたとない機会になった。

- (6) 2010 年 6 月にロシア・モスクワで、ISO 会員団体の GOST R(Federal Agency on Technical Regulating and Metrology)の招待により ISO/TC 135 総会及び関連 SC 会議を開催する予定である。GOST R からの正式招待状が 2010 年 1 月末になってようやく届いたことや会議参加者のビザ取得関連業務のため、通常の総会よりも準備作業は膨大なものになっている。議長及び幹事はほぼ 24 時間体制で参加各国との連絡業務等に取り組んでおり、現時点で準備作業は概ね順調に進行しているといえる。

- (7) 2009 年 4 月～2010 年 3 月に発行された新 ISO 規格

- ① ISO 12706「浸透探傷試験用語」(2009-10-01)
- ② ISO 15548-1:2008/Cor 1「渦流探傷試験装置 — 第 1 部:装置の特性と検証 — 正誤表 1」(2010-03-01)

4.3.3 ISO/TC 135/SC 6 幹事国業務

- (1) 漏れ試験用語の策定は、技量認定のための必須項目の一つとして取り上げられていながら、P メンバー 5 カ国からのエキスパートが集まらず(現状 4 カ国、そのた 0 メンバーから 1 カ国)引き続き、参加を各国に打診中である。その中で TC 135/SC 9 に超音波による漏れ試験を扱う WG 3 が発足したのを機に、SC 9 の幹事国ブラジルにエキスパートの参加を要請中である。これに伴い、用語には超音波漏れ試験に関する用語の追加を行う。SC 6 所管の質量分析型ヘリウム漏れ試験器の校正方法に関する国際規格 ISO 3530 については規格制定が古く陳腐化したため定期見直しの投票を各国に回したが、継続するとの議決になったため、今後は現在の技術レベルに対応したものに修正を加えていく。

5. 出版・試験片活動

5.1 出版委員会

委員会を5回開催し、以下の活動を行った。

- (1) 出版計画書に基づいた出版物の製作審議、管理、頒布を行った。
- (2) JIS Z 2305 対応書籍としての出版物の見直しを行った。
- (3) 原稿の電子化の推進を行った。
- (4) インターネット上で書籍の受注を実施した。
- (5) 展示会等で一部書籍の店頭販売を実施した。
- (6) 出版物の英語版発行の検討を行った。

5.1.1 刊行物

以下の各種参考書などの書籍を増刷・頒布した。また、委託書籍の仕入販売も行った。

- (1) 非破壊検査技術シリーズ、その他（書籍名のあとの数字は発行年度）
 - (a) 21年度発行全面改訂版
 - 1) 放射線の安全取扱 2009
 - 2) エックス線作業主任者用テキスト 2009
 - 3) エックス線作業主任者試験 公表問題の解答と解説 2009
 - 4) 超音波厚さ測定 I 2009
 - 5) 磁粉探傷試験 III 2009
 - 6) 磁粉探傷試験 I 2009
 - 6) 磁粉探傷試験問題集 2009
 - 7) ひずみ測定 III 2009
 - 8) 超音波探傷試験実技参考書「デジタル探傷器」編 2009
 - (b) 増刷頒布
 - 1) 非破壊試験技術総論 2004
 - 2) 非破壊試験技術者のための金属材料入門 1998
 - 3) 非破壊試験技術者のための金属材料概論 2008
 - 4) レベル3技術者のための材料科学及び認証システムに関する問題集 2006
 - 5) 放射線透過試験 I 2006
 - 6) 放射線透過試験 II 2006
 - 7) 放射線透過試験 III 2002
 - 8) 放射線透過試験問題集 1999
 - 9) 放射線透過試験実験法 1987
 - 10) 放射線透過試験技術に関する写真及び解説 2006
 - 11) 中性子ラジオグラフィ写真集 1995
 - 12) 放射線の安全取扱 1996/2009
 - 13) エックス線作業主任者用テキスト 2004/2009
 - 14) エックス線作業主任者試験 公表問題の解答と解説 2008/2009
 - 15) 超音波探傷試験 I 1999
 - 16) 超音波探傷試験 II 2000
 - 17) 超音波探傷試験 III 2001
 - 18) 超音波厚さ測定 I 2001/2009
 - 19) 超音波探傷試験問題集 2002
 - 20) 超音波探傷試験実技参考書 2005
 - 21) 超音波探傷試験実技参考書「デジタル探傷器」編 2009
 - 22) 各種製品及び溶接構造物の超音波探傷試験 2004
 - 23) 鉄骨溶接部の超音波探傷試験実施マニュアル 1999
 - 24) 超音波探傷入門（パソコンによる実技演習） 2000
 - 25) 磁粉探傷試験 I 2007
 - 26) 磁粉探傷試験 II 2007
 - 27) 磁粉探傷試験 III 1998/2009
 - 28) 磁粉探傷試験問題集 1999/2009
 - 29) 磁粉探傷試験実技参考書 2001
 - 30) 鉄鋼材料の磁粉及び浸透探傷試験による欠陥指示

模様の参考写真集 1991

- 31) 浸透探傷試験 I 2004
 - 32) 浸透探傷試験 II 2005
 - 33) 浸透探傷試験 III 2008
 - 34) 浸透探傷試験問題集 2001
 - 35) 浸透探傷試験実技参考書 2001
 - 36) 渦流探傷試験 I 1995
 - 37) 渦流探傷試験 II 1995
 - 38) 渦流探傷試験 III 2003
 - 39) 渦流探傷試験問題集 2002
 - 40) 渦流探傷試験実技参考書 2001
 - 41) ひずみ測定 I 2007
 - 42) ひずみ測定 II 2007
 - 43) ひずみ測定 III 1998/2009
 - 44) ひずみ測定問題集 1998/2009
 - 45) アコースティック・エミッション試験 I 2006
 - 46) アコースティック・エミッション試験 II 2008
 - 47) イラストで学ぶ非破壊試験入門 2002
 - 48) 非破壊評価工学 1998
 - 49) 音弾性 1994
 - 50) 赤外線サーモグラフィによる設備診断・非破壊評価ハンドブック 2004
 - 51) 非破壊検査工学叢書「非破壊検査の最前線」(CD-ROM版) 2002
 - 52) 非破壊検査やさしい解説 Vol.1
- (2) 学術講演大会講演概要集（○：21年度発行新版）
 - 1) ○平成21年度春季大会講演概要集
 - 2) 平成20年度秋季大会講演概要集
 - 3) 平成20年度春季大会講演概要集
 - 4) 平成19年度秋季大会講演概要集
 - 5) 平成19年度春季大会講演概要集
 - 6) 平成18年度秋季大会講演概要集
 - 7) 平成18年度春季大会講演概要集
 - (3) 日本非破壊検査協会規格 (NDIS)
 - (4) JIS ハンドブック「非破壊検査」 2008/2009
 - (5) JIS Z 2305:2001「非破壊試験－技術者の資格及び認証」
 - (6) Recommended Practice No. SNT-TC-1A:2001（日本語版）原文とセット販売
 - (7) 「非破壊検査入門」DVD

5.2 試験片委員会

委員会を4回開催し、以下の活動を行った。

- (1) 試験片委員会品質管理マニュアルに基づき、試験片製作・検定・頒布を行った。
- (2) 各種試験片のトレーサビリティ証明書又は品質証明書の発行と管理を行った。
- (3) 各試験片素材の特性調査を行った。
- (4) インターネット上で試験片の受注を実施した。
- (5) 超音波探傷試験用標準試験片の寸法成績書の発行を実施した。
- (6) 顧客のサービス向上について検討を行った。
- (7) 展示会等で一部試験片の店頭販売を実施した。

5.2.1 頒布品

以下の試験片・ゲージの頒布を行った。

- (1) 放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ
 - 1) 鋼溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ（きずの像の分類方法抜粋カード付）（準拠規格 JIS Z 3104）
 - 2) アルミニウム溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ（きずの像の分類方法抜粋カード付）

- (準拠規格 JIS Z 3105)
- 3) 鋳鋼品放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ
(試験視野用 1 枚、寸法測定用 1 枚、2 枚 1 組)
(準拠規格 JIS G 0581)
- (2) 超音波探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2345)
- 1) G 形 S T B
 - 2) N 1 形 S T B
 - 3) A 1 形 S T B
 - 4) A 2 形系 S T B
 - 5) A 3 形系 S T B
- (3) 超音波厚さ計用対比試験片 (準拠規格 JIS Z 2355)
- 1) R B - T
- (4) 磁粉探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2320-1)
- 1) A 1 形標準試験片
 - 2) A 2 形標準試験片
 - 3) C 1 形標準試験片
- (5) 浸透探傷試験訓練用焼割れ試験片
- (6) 発泡液試験片 (準拠規格 JIS Z 2329)
B L - 3 0 / 1 0 0
- (7) 浸透探傷試験及び磁粉探傷試験の目視観察条件の目視基準ゲージ (準拠規格 JIS Z 2340)
- 1) 赤色浸透探傷試験用
 - 2) 黒色磁粉探傷試験用
 - 3) 蛍光浸透探傷試験・蛍光磁粉探傷試験用
- 5.2.2 試験片トレーサビリティ証明書の発行**
- (1) 超音波厚さ計用対比試験片 (準拠規格 JIS Z 2355)
 - (2) 磁粉探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2320)
 - (3) 発泡液試験片 (準拠規格 JIS Z 2329)
- 5.2.3 試験片品質証明書の発行**
- (1) 超音波探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2345)

6. 認証活動

6.1 認証運営委員会

委員会を 4 回開催し、主に以下の事項について審議、検討した。

- (1) 漏れ試験認証準備
 - (2) 赤外線サーモグラフィ認証準備
 - (3) 規則・基準・手順の制定及び改正
 - (3) JSNDI 仕様デジタル探傷器導入
 - (4) 二次試験合格者速報 (HP 掲載)
 - (5) 今後の実技試験会場の在り方
 - (6) マネジメントレビューの実施
 - (7) 諮問委員会の意見具申への対応
- また、委員会に以下のワーキンググループを設置し、活動を行った。

- (1) 漏れ試験認証準備 WG
新 NDT 方法としての漏れ試験法による認証制度の立ち上げに向けて準備を開始した。
- (2) 赤外線サーモグラフィ認証準備 WG
NDIS 0604 による認証制度の立ち上げ準備を昨年度に引き続き進めている。
- (2) BINDT PED (欧州圧力機器指令) 承認制度 WG
2006 年度から実施している BINDT PED 承認制度の定期監査を BINDT から受け、指摘事項への対応が必要となったため、2009 年度の試験を中止とした。
- (3) ACCP-PCP WG
JIS Z 2305 資格者が ASNT-ACCP 認証を取得するための MOU を ASNT と締結し、実行に向けての準備を開始した。

6.1.1 諮問委員会

2010 年 3 月 23 日に開催し、試験実施状況等を報告するとともに関連学協会等からご意見を頂戴した。

6.1.2 試験基準委員会

2010 年 3 月 16 日に開催し、試験実施状況及び資格試験基準を確認した。

6.1.3 内部監査委員会

委員会を 2 回開催し、指摘事項への是正処置状況の確認を行った。また、2010 年 3 月 18 日に内部監査を実施した。

6.1.4 倫理苦情処理委員会

委員会を 6 回開催し、主に不適切な訓練実施記録発行に関わる審理を実施し、関係者の処分を実行した。

6.1.5 問題管理委員会

委員会を 4 回開催し、主に以下の事項について検討した。

- (1) 試験問題の統計分析処理
- (2) 試験問題のモニタリングの試行

6.1.6 査定委員会

委員会を 4 回開催し、非破壊試験技術者の認証の査定を行った。また、資格登録後に 5 年毎に実施される資格継続調査を実施した。

JIS Z 2305 による非破壊試験技術者の登録件数

レベル 1	14,293
レベル 2	51,410
レベル 3	6,689
合計	72,392

(2009 年 12 月 30 日現在)

*他団体からの相互認証資格 104 名分除く

6.1.7 試験委員会

委員会を4回開催し、主に以下の事項について審議、検討した。

- (1)2009年度試験員の選定
- (2)資格試験スケジュール
- (3)一次試験事故対応手順
- (4)JSNDI仕様デジタル探傷器導入
- (5)今後の実技試験会場の検討
- (8)試験における新型インフルエンザ対応
- (9)二次試験合格者速報(HP掲載)
- (10)2009年度春・秋の定期試験の実施と試験結果

定期試験実施日

春期一次試験：3月28日～29日

春期二次試験：5月14日～6月24日

秋期一次試験：9月19日～20日

秋期二次試験：11月5日～12月26日

2009年度春・秋定期試験結果

(注)通移行：通常移行 (NDIS0601資格者の更新時期該当者)

NDT 方法・レベル	期	種別	受験申請者数	最終合格者数
RT1	春	新規	48	32
		再認証	0	0
		通移行	7	2
	秋	新規	74	25
		再認証	0	0
		通移行	6	3
UT1	春	新規	578	310
		再認証	2	1
		通移行	89	32
	秋	新規	679	340
		再認証	0	0
		通移行	48	25
UM1	春	新規	296	187
		再認証	0	0
		通移行	21	18
	秋	新規	391	220
		再認証	0	0
		通移行	4	4
MT1	春	新規	165	74
		再認証	0	0
		通移行	0	0
	秋	新規	160	50
		再認証	0	0
		通移行	0	0
MY1	春	新規	161	52
		再認証	0	0
		通移行	41	13
	秋	新規	125	24
		再認証	0	0
		通移行	14	5
ME1	春	新規	10	4
		再認証	0	0
		通移行	3	2
	秋	新規	20	2
		再認証	0	0
		通移行	2	1

NDT 方法・レベル	期	種別	受験申請者数	最終合格者数
MC1	春	新規	2	2
		再認証	0	0
		通移行	2	2
	秋	新規	7	3
		再認証	0	0
		通移行	1	0
PT1	春	新規	329	162
		再認証	0	0
		通移行	1	0
	秋	新規	417	191
		再認証	0	0
		通移行	0	0
PD1	春	新規	176	79
		再認証	0	0
		通移行	60	42
	秋	新規	179	69
		再認証	0	0
		通移行	19	11
PW1	春	新規	0	0
		再認証	0	0
		通移行	2	2
	秋	新規	2	2
		再認証	0	0
		通移行	0	0
ET1	春	新規	30	16
		再認証	0	0
		通移行	2	0
	秋	新規	33	8
		再認証	0	0
		通移行	1	0
SM1	春	新規	31	18
		再認証	1	1
		通移行	2	2
	秋	新規	9	7
		再認証	0	0
		通移行	1	0
レベル1計	春	新規	1,826	936
		再認証	3	2
		通移行	230	115
	秋	新規	2,096	941
		再認証	0	0
		通移行	96	49

NDT 方法・レベル	期	種別	受験申請者数	最終合格者数
RT2	春	新規	718	207
		再認証	2	2
		通移行	167	99
	秋	新規	809	238
		再認証	1	0
		通移行	61	35
UT2	春	新規	2,073	563
		再認証	3	2
		通移行	307	181
	秋	新規	2,298	681
		再認証	1	1
		通移行	100	39

NDT 方法・レベル	期	種別	受験申請者数	最終合格者数
MT 2	春	新規	1,668	307
		再認証	1	1
		通移行	299	152
	秋	新規	1,939	362
		再認証	0	0
		通移行	117	64
MY 2	春	新規	184	41
		再認証	0	0
		通移行	9	6
	秋	新規	225	37
		再認証	0	0
		通移行	1	0
PT 2	春	新規	2,030	864
		再認証	1	0
		通移行	259	194
	秋	新規	2,290	764
		再認証	2	1
		通移行	83	55
PD 2	春	新規	598	237
		再認証	0	0
		通移行	40	27
	秋	新規	632	241
		再認証	1	1
		通移行	12	8
ET 2	春	新規	413	184
		再認証	0	0
		通移行	115	51
	秋	新規	437	176
		再認証	0	0
		通移行	55	24
SM 2	春	新規	124	44
		再認証	0	0
		通移行	36	18
	秋	新規	129	39
		再認証	0	0
		通移行	20	14
レベル2計	春	新規	7,808	2,447
		再認証	7	5
		通移行	1,232	728
	秋	新規	8,759	2,538
		再認証	5	3
		通移行	449	239

NDT 方法・レベル	期	種別	一次受験申請者数	一次合格者数
レベル3新規 (全NDT方法共通) 基礎試験	春	新規	612	189
	秋	新規	612	119

NDT 方法・レベル	期	種別	受験申請者数	最終合格者数
RT 3	春	新規	151	40
		再認証	1	1
		通移行	39	26

	秋	新規	169	43
		再認証	0	0
		通移行	10	3
UT 3	春	新規	541	72
		再認証	4	3
		通移行	72	39
	秋	新規	567	60
		再認証	1	0
		通移行	25	13
MT 3	春	新規	181	1
		再認証	1	1
		通移行	8	6
	秋	新規	193	22
		再認証	0	0
		通移行	5	2
PT 3	春	新規	292	68
		再認証	1	1
		通移行	8	4
	秋	新規	313	79
		再認証	0	0
		通移行	4	3
ET 3	春	新規	67	18
		再認証	1	1
		通移行	12	11
	秋	新規	81	30
		再認証	0	0
		通移行	2	2
SM 3	春	新規	22	10
		再認証	0	0
		通移行	1	0
	秋	新規	28	12
		再認証	0	0
		通移行	1	1
レベル3計	春	新規	1,254	209
		再認証	8	7
		通移行	140	86
	秋	新規	1,351	246
		再認証	1	0
		通移行	47	24

2009年度 受験申請者数・合格者数

種別	総受験申請者数	総合格者数
新規	23,094	7,317
再認証	24	17
通移行	2,194	1,241
総合計	25,312	8,575

6.1.8 認証広報委員会

委員会を7回開催し、主に受験申請者数、合格率、及び資格試験内容等についての解説を、機関誌「非破壊検査」NDTフラッシュに掲載した。また、併せてホームページへの掲載を行った。

6.2 非破壊検査総合管理技術者認証委員会

NDIS 0602:2003「非破壊検査総合管理技術者の認証」に基づき資格認証を行い、本年度は12名の認証申請があった。なお、現在有効な資格登録者数は154名である。

6.3 国際認証委員会

委員会を3回開催し、主に以下の活動を行った。

- (1) BINDT (英国 NDT 協会) による PED (欧州圧力機器指令) NDT 承認制度の定期監査への対応
- (2) ICNDT (the International Committee for NDT) WG1 (ICNDT NDT 認証委員会) への対応
- (3) 米国非破壊試験協会 (ASNT) ACCP 認証取得の推進
JIS Z 2305 資格者の ACCP 資格取得制度において 2009 年 11 月 8 日に ASNT と JSNDI にて合意書を交わし、試験実施に向けての準備を開始した。
- (4) カナダ天然資源省 (NRCan) との相互認証に基づく認証
カナダ CAN/CSGB-48.9712 資格者の相互承認による JIS Z 2305 資格証明書を 2 名 9 資格について発行した。なお、現在までに 5 名 15 件の JIS Z 2305 資格を発行している。

6.4 PD 認証運営委員会

委員会を3回開催し、PD 認証機関として主に以下の事項について審議、検討した。なお、PD 資格試験機関の PD 資格試験結果報告書に基づき審査の結果、7名のPD認証を行い、PD 認証者は累計で31名となった。

- (1) PD 資格試験結果に基づく認証審査
- (2) PD 技術者の更新認証審査
- (3) PD 資格試験機関・PD 試験センターに対する第4回サーベイランス審査
- (4) PD 研修プログラムのサーベイランス審査
- (5) PD 内部監査指摘事項への対応
- (6) PD マネジメントレビューの実施

6.5 PD 認証スキーム委員会

PD 認証に係る機関の委員で構成する委員会を2回開催し、以下の所管事項に基づき活動を行った。

- (1) PD 認証システムの公平性の確認
- (2) PD 認証スキームの開発及び維持

また、委員会にWGを設置し、今後のPD認証開発に関する技術的対応について検討した。

7. 表彰

(1) 協会賞、業績賞、論文賞、奨励賞、石井賞の表彰審査委員会を組織し、以下のとおり選考及び授与を行った。

協会賞 小林 英男 君

業績賞 小堀 修身 君、西田 健陽 君

論文賞

1. 汚れ付着配管中のラム波に関する付着材料の減衰を考慮した理論解析
戸田裕己君、村田頼信君、渡辺 圭君、岩橋茂雄君

学術奨励賞

1. 反射体を用いたガイド波の高効率励起検出法による欠陥検出性能の検証
小倉圭二君、近藤浩徳君、吉田憲一君、西野秀郎君
(注) 下線は既授賞者のため授賞対象外
2. 初透磁率の不均一性を考慮した残留オーステナイト含有量電磁非破壊検査
西下 慧君、池田裕二郎君、後藤雄治君
高橋則雄君、笹栗信也君

技術奨励賞 城戸友文君、小松義明君

石井賞 (該当なし)

(2) 新進賞授与委員会を組織し、日本非破壊検査協会 新進賞の選考を行い、以下のとおり新進賞を授与した。

新進賞

平成 21 年度春季講演大会

1. 静止状態における自動車用ハブの設計要素に関する研究
石川慎太郎君
2. 中性子ダイナミック CT システムの開発
大塚裕介君
3. 人工股関節のソケット関節面における応力分布の数値解析
解 晨君
4. 極間法における漏洩磁界と試験体の磁束密度分布に関する研究
高田 明君
5. スペクトルサブトラクション法を用いたノイズ除去機能を有した AE 計測システムの開発
松尾卓摩君

第 3 回シンポジウム「コンクリート構造物の非破壊検査」

1. マイクロ波を利用した RC 構造物中の鉄筋および欠陥探査方法に関する研究
根岸 稔君
- 第 17 回アコースティック・エミッション総合コンファレンス
1. 鉄筋腐食膨張圧により生じる剥離ひび割れの破壊特性
高谷 哲君
 2. Cu-Al-Ni 形状記憶合金における超弾性マルテンサイト変態とその AE 応答規模
安田武司君

第 41 回 応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム

1. フーリエサンプリングモアレ法による構造物の高精度な微小変位分布計測
李 志遠君

2. 蛍光物質を含んだアクリル樹脂のひずみと蛍光寿命の関係
青木健治君

3. 液体包装袋の注ぎ口における醤油の蒸発の観察
加藤功二郎君

第 5 回 赤外線サーモグラフィによる非破壊評価シンポジウム

1. 自己相関ロックイン赤外線サーモグラフィによるタイル表面反射の低減
鄭 子揚君

第 17 回 超音波による非破壊評価シンポジウム

1. 円形アレイセンサによる 3 次元超音波斜角探傷技術の開発
溝田 裕久君
2. エルボ管における T(0, 1) モードガイド波の高次モード変換
田中 俊郎君

第 7 回 放射線による非破壊評価シンポジウム

1. 第 3 世代 X 線検出器『SID-A 50』
高田圭弘君
- 安全・安心な社会を築く先進材料・非破壊計測技術シンポジウム
1. 渦電流探傷クロスポイントプローブを用いた CFRP の欠陥検出について
小島剛基君

2. バイアス磁界を併用した渦電流試験による鋼板の厚さ測定
石塚卓也君

8. 選挙管理委員会

平成 22・23 年度 任期の次の選挙を実施した。

①評議員選挙、②会長選挙、③監事選挙、④理事選挙

9. 名誉会員の推戴

日本非破壊検査協会名誉会員として 2 名を推戴した。
岸 輝雄君、廣島 龍夫君